

# 早場米の作況指数発表 「良ないし平年並み」

農林水産省は8月27日に全国作況標本調査1万248筆、作況基準筆調査648筆での早場米地帯の19道県の作柄について「良」ないし「平年並み」と見込まれると発表した。(図表：早場地帯の作柄の良否参照) 現在のところ北海道で「良」、やや良は10県(青森・秋田・岩手・宮城・山形・福島・新潟・茨城・千葉・長野)となっている。また、遅場地帯の生育は関東地方で「やや良」、その他の地域では日照不足・低温の影響にもかかわらず「平年並み」の作柄であると発表している。長雨、日照不足の影響を受けた北陸および西日本地域では出穂期が対前年で1～4日遅れているが平年では山口・愛媛、九州地方で1～2日遅れを除くと1～5日早い出穂を迎えた。早場品種の傾向としては平年比でいくと穂数が多い傾向にあり1穂着粒数はやや少ないないしは平年並み、登熟は長雨や日照不足の影響のために平年並みないしはやや不良と判定されたものの総じてみれば作柄は「良」か「やや良」と判定された。

遅場地帯の生育状況は8月15日現在では茎数が平年並みかやや多いと判定された地域が多く作柄は「平年並み」か「やや良」となっており「やや不良」と判定された県は宮崎県のみにとどまる。これから東日本・北日本の収穫期となっていくのだが、台風などの災害が発生しない限りは全国的に豊作傾向となりそうだ。作況指数が100を超える場合、指数が1増えると全国的に14～15万トン多く採れた計算となるようだ。現在、前代未聞の米価が下落している中での豊作予報は生産現場にとって大変頭の痛い話となっている。

図 早場地帯の作柄の良否

区分	作柄の良否	道県数
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:red;"></span>	良	1道
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:orange;"></span>	やや良	10県
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:yellow;"></span>	平年並み	8県



注：1 地図上の白抜きの都府県は、遅場地帯を表す。  
 2 作柄の良否の表示区分は、「良」が作況指数106以上、「やや良」が105～102、「平年並み」が101～99に相当する。

## 国際的な穀物等の見通し（海外食料需要レポートより）

### ～穀物全体の生産量は史上最高、消費量を上回り期末在庫率は増加

大臣官房食料安全保障課より国際的な穀物等の需給の見通しが発表された。穀物全体では生産量は24.61億トン、消費量は24.42億トンで生産量が上回り期末在庫率は21.3%と前年度差で0.6ポイント

品目	地域における生産量の状況について
コムギ	カナダ・米国：栽培面積増加するものの単収が低下し前年度下回る
	ロシア・EU：収穫面積が増加し前年度上回る
	中国：収穫面積は減少するものの史上最高の単収
トウモロコシ	ブラジル・ウクライナ：生産量は減少
	中国・EU・米国：収穫面積は減少するものの単収の上昇で史上最高
コメ	インドで生産量は減少 中国での生産量は収穫面積増により史上最高
ダイズ	中国で生産量は減少、需要量が増加し輸入量が増加
	米国・ブラジル・カナダ：生産量は収穫面積の増加及び単収の上昇により史上最高

(前ページより続く)

プラスに転じ世界的に見ても豊作傾向が伺える。FAOが示す穀物安全在庫水準は17～18%となっており在庫水準も心配ない状況で先物価格も緩んでいる。

品目	コムギ	トウモロコシ	コメ	ダイズ
生産量(百万t)	716	985	477	305
消費量(百万t)	707	969	482	283
期末在庫率(%)	27.3	19.4	21.9	30.2

## 第40回東北トモエ営農現地研修会開催

去る9月5～6日、秋田県にて節目となる第40回東北トモエ営農現地研修会が開催され、総勢20名が参加した。今回の現地圃場研修は地元の菊長商事様の協力のもと、2つの水稲試験圃場を視察することができた。書面を借りて改めて御礼申し上げます。

視察した1つの圃場は、ノンコーティングのトモエ緩効性肥料を元肥とし追肥を施用した対照区と、「トモエ化成+被覆尿素」の一発肥料に「リン酸+苦土」肥料を元肥に施用した試験区との比較。茎数・茎の太さ・硬さ・枝梗数から、生育途中ながら試験区が勝れた結果となっており「リン酸+苦土」肥料の効果が表れたものと考察出来た。

生産者の方からは、効果も然ることながら一発肥料を使用したことによる作業性の容易さに評価を頂いた。生産者の意見としては従来の慣習から穂肥を施用しないことに対して作業的に物足りなさを感じるものの、年齢的にも追肥はしたくないのが本音であり、一発型はとにかく楽だとの生の声がとても現実的で印象に残った次第であった。

高チン成分タイプのL型一発肥料の連用や土壌改良材の使用量減少による、土壌中のリン酸・カリの減少による収量・品質の低下の問題も近年顕著になり始めている。この問題を克服する為に開発中の新商品「リン酸+カリ+苦土」をもう一つの圃場で試験し、前述対照区に加えた計3区での比較試験を行っている。茎数等3区同等であり大きな違いは見られなかったが、枝梗数は「リン酸+カリ+苦土」区が勝っており供試肥料の効果ではないかと考察された。田植後から生育は順調に推移したが、ご当地秋田県では8月の日照不足と低温が影響し、平年と比較すると収穫期は両圃場共に今月20～25日に若干遅れる見込み。最終結果が待たれるところである。

室内研修では前述新商品の説明が行われ、含有する成分「リン酸・カリ・苦土・ケイ酸」其々の作物に対する効果と必要性を受講し、また、天候異変を乗り切り秀品多収するためには「土づくり」が最も重要との講義を受けた。米価下落もあり今後の水稲生産は先行き不透明であるが“良い物が沢山収穫出来る確りした技術を持つ”と参加者一同認識した研修会となった。(東京支店 高橋)



### 菱肥会総会開催のお知らせ

3年に一度の菱肥会総会が開催されます。関係者の皆様には、正式なご案内状は追ってお送り致しますが、ご予約の程、宜しくお願い致します。

開催日：平成26年11月20日(木)

場所・時間等につきましては、ご案内状をご確認下さい。

9/8は中秋の名月でした。それにちなんで問題です。お月見団子の数は何個でしょうか？正解は15個。満月に見立てた月見団子は、十五夜にちなみ大きさが一寸五分(直径およそ4.5cm)の団子を15個供えるのが決まりです。一段目に9個、二段目に4個、一番上は2個盛ります。子供の頃、縁側にお供えしてあったお団子が早く食べたくて眺めていましたが、実は盗み食いをしてしまいました。お月様に食べていただいたと解釈し、縁起が良いとされるそうですよ。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp